

実践報告資料

研究テーマ『 わたしの居場所となる学校～つながりの中で子どもたちの人権の芽を育てる～ 』

研究内容【 (1)、(2)、(3)、(4) 】

学校名（稲美町立稲美中学校）

ア 人権教育としてのねらい

言葉が他者に与える影響や言葉の力の大きさに着目した言語活動を中心として、人と人、心と心をつなぐの深まりをめざし、人権意識の向上、さらには生徒の自治能力の涵養を図る。積極的に家庭・地域と連携し、学校だけではなく家庭、地域と共に人権について考えることで、学校・家庭・地域が子どもたちの居場所となることをめざす。

イ 研究の概要

学校・家庭・地域が子どもたちの居場所となる要素として、①安心感がある・②受容されている・③役割がある・④自分らしくいられるという4つの要素が必要であるといわれている。その4つの観点をもとに生徒会活動をめざし、制服等をはじめとした校則や日々の生活を見直しながら学校が誰もが過ごしやすい居場所となるよう取り組ませる。10月開催のふるさとデーでは、防災を大きなテーマとして、家庭、地域と連携して私たちが住む稲美町について地域全体で考える機会とする。学校だけではなく地域における自治についても考えさせ、非常時においても互いの人権を尊重する意識をもち、地域の一員として困難や課題に対して自分でできることに取り組む意欲や態度を身に付けさせる。集大成として12月には人権宣言を策定する。このように多くの場でつながりを深めさせるとともに、言葉が人権に与える影響にも着目し、子ども一人ひとりの人権の芽を丁寧に育てることをめざし研究を進めていく。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	推進教員	全職員	推進教員	全職員 コミュニティスクール
実施日	10月10日	3月1日	6月5日～9日	10月28日
取組名	人権と共生社会 平等権②	人権学習 「水平社宣言から学ぶ」	トライやるウィーク	ふるさとデー
目標	平等権の学習内容をもとに、共生社会について多面的に考えさせる。自分たちの学校で共生社会を実現するために必要な取組や努力についてまとめ、発表する。	差別の起源、全国水平社創立の歴史などから差別について深く考えることで、正しい知識と理解のもと、差別を許さない、差別に立ち向かう強い心を養わせる。	言葉が人に与える影響の大きさについて考える。言葉かけ1つの重要性に気付かせる。地域の一員としての自覚を芽生えさせる。	一日を通して防災について考え、命の尊さやふるさとへの思いを再確認させるとともに、自助・共助・公助の精神を涵養する。
資料名	自作ワークシート [別紙①]	水平社宣言		
指導内容や指導方法の工夫等	平等権に関する既習内容をもとに、家庭学習に取り組ませる。一度回収し、担当教員が内容を確認したのち、グループワークを行わせる。学校における実現可能性を探らせることで、共生社会についてより深い学習をめざす。	道徳での事前学習をもとに、全国水平社の歴史を丁寧に学習させ、100年もの年月が示す意味について深く考えさせる。多くの資料から、全国水平社の立ち上げに込められた人々の思いに触れさせ、差別を許さない強い心を養わせる。	事業所の方からかけてもらった言葉の中でうれしかったものを報告させ、掲示物を作成する。自らの働き方(行動)が、気付かないところで人のためになることの喜びを実感させる。地域の方との5日間のかかわりの中で、地域の一員としての自覚を再確認させる。	全校合唱、避難時のアクティブレスト、災害時の食など、生徒発表と講師による講演会、防災体験を通して、いずれ来る震災への備えをより具体的に学習させる。地域の方との共同学習により、自助・共助・公助の精神の涵養をめざす。